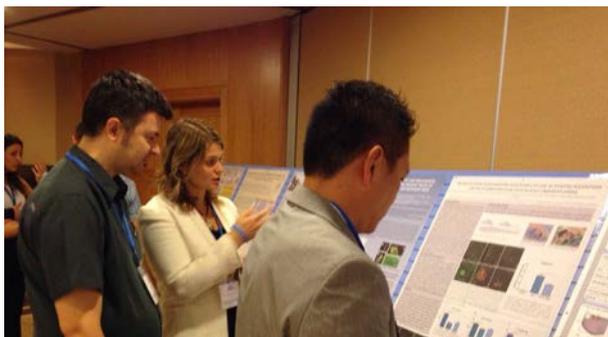


頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
酸化ストレス仮説に基づく新規精神疾患創薬のための国際共同研究 (整理番号:S2603)

【講演会等 開催報告】

タイトル: 第12回VIP/PACAP関連ペプチド国際シンポジウム 報告
場所: Kapadokya Lodge (カッパドキア、トルコ)
日時: 平成27年9月21日(月)～26日(土)



第12回VIP/PACAP関連ペプチド国際シンポジウムが、2015年9月21日～26日にトルコで開催されました。VIP、PACAPおよび関連ペプチドを研究している世界中の研究者が集まり、免疫系疾患、神経変性疾患、精神疾患等におけるこれらペプチドの病態的意義に関して多くの発表・議論がなされ、また臨床応用にむけた最新の研究成果も発表されました。

本シンポジウムでは、10のセッションのうち頭脳循環プログラムメンバーが主催するセッションが2つ採択されました。シンポジウムの3日目には主担当研究者の橋本教授と主要連携研究者の教授が座長となり、「PACAP and inflammatory signals in the brain: Depression to neurodegenerative disease」と題したセッションを、5日目にはWaschek教授と若手派遣研究者の吾郷が座長となり「Explaining the genetic linkages of VPAC2 and PAC1 to mental health disorders through animal」と題したセッションを開催し、いずれも頭脳循環プログラムで得られた成果を中心とした発表を行いました。これらは、本プログラムを通じて強化されたWaschek研との研究ネットワークとその研究推進とが国際社会で高く評価されたことを意味すると共に、精神疾患の発症機構や創薬研究に関する成果発表として、PACAPと同シグナルが関わる酸化ストレスの重要性を全世界にアピールする重要な機会になったものと考えています。